

科目名	西洋史	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			経済学部	□必修 ■選択	
			総合政策部	□必修 ■選択	
英文表記	European History	開講年次	■ 1 年 ■ 2 年 ■ 3 年 ■ 4 年		
		開講期間	□前期 □後期 □通年 ■集中		
ふりがな	なかむら たけし	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	中村 武司	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	近世ヨーロッパとグローバル・ヒストリー				
到達目標	この講義では、16 世紀のいわゆる「大航海時代」から 20 世紀初頭の帝国主義の時代にいたる世界史／グローバル・ヒストリーを、ヨーロッパにとくに注目して概観する。そのさい、近代のヨーロッパが、アジアやアメリカ、アフリカといった世界の各地域との相互の交流や関係なくしては成立しえなかったことを講義では明らかにする。				
授業概要	近世以降のヨーロッパ史と世界史／グローバル・ヒストリーにかんして、歴史の流れを把握するとともに、基本的な知識や概念、考え方を理解することを目標とする。				
授業計画					
第 1 回	イントロダクション				
第 2 回	世界システム論とは何か				
第 3 回	前近代のユーラシア世界システム（前）				
第 4 回	前近代のユーラシア世界システム（後）				
第 5 回	1571 年——グローバル化のはじまり（前）				
第 6 回	1571 年——グローバル化のはじまり（後）				
第 7 回	17 世紀の危機とオランダの繁栄				
第 8 回	複合国家と社団国家				
第 9 回	平和なき近世ヨーロッパ				
第 10 回	財政軍事国家イギリス				
第 11 回	大西洋奴隷貿易の展開と廃止				
第 12 回	東インド会社とアジア				
第 13 回	大西洋革命の時代				
第 14 回	ネオ・ヨーロッパの創出				
第 15 回	大分岐——ヨーロッパとアジア				
第 16 回	定期試験				
授業時間外の学習	授業後、参考文献等を確認したり、ノートを整理したりするなどして、復習の時間（1 回あたり 90～120 分程度）を設けること。				
履修条件 受講のルール	事前に高校世界史（世界史 B／世界史探究）の内容を復習して履修するほうが望ましい。				
テキスト	授業中にレジュメ等の資料を配付する。				
参考文献・資料	世界の転換期を知る 11 章編集部（編）『世界の転換期を知る 11 章』（山川出版社、2024 年） 川北稔『世界システム論講義——ヨーロッパと近代世界』（ちくま学芸文庫、2016 年） 水島司『グローバル・ヒストリー入門』（山川出版社、2010 年）				
成績評価の方法	平常点評価：50％、試験：50％ ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。				

オフィスアワー	
成績評価基準	秀(100～90 点)、優(89～80 点)、良(79～70 点)、可(69～60 点)、不可(59 点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	「歴史とは過去と現在の絶えざる対話」という言葉があります。過去を知るためだけに学ぶのではない、そこに歴史学の醍醐味のひとつがあるのです。